

<株式会社エフエム東京 第 483 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 3 年 11 月 2 日（火）
2. 開催場所：TOKYO FM 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（4 名）

ロバート キャンベル 委員長	佐々木 俊尚 委員
松田 紀子 委員	山口 真由 委員

◇欠席委員（2 名）

秋元 康 委員	川上 未映子 委員
---------	-----------

◇社側出席者（8 名）

唐島 代表取締役会長
黒坂 代表取締役社長
小川 取締役
内藤 執行役員編成制作局長
延江 編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮野 編成制作局次長 兼 編成部長
若杉 編成制作局制作部長
砂井 編成制作局制作部チーフプロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 25 分）

『THE TRAD』

10 月 18 日（月）～21 日（木）15：00～16：50 放送のダイジェスト

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■2021 年 9 月度聴取率調査結果について

ビデオリサーチによる 9 月度ラジオ聴取率調査結果（調査期間：9/6～12）が発表されました。今回、TOKYO FM はコアターゲット【男女 18～49 才】層において、在京トップを奪還することができました。さらに、【男女 12～59 才】では単独トップ、【男女 12～69 才】では同率トップ、【M1F1】【M2F2】【男女 20 代】【30 代】【40 代】【50 代】といった幅広い区分でも同率を含み在京首位となり、大きな存在感を示し高いシェアを獲得できました。

なお、今回の調査結果ではラジオ全局 SIU（セットインユース）の低下が見られ、個人全体の【男女 12～69 才】の SIU が、前回 5.1%→今回 4.7%に下降しました。この数値はコロナ禍以前の水準になり、生活状況が戻りつつあることを示しています。ラジオの聴取傾向としては、前回調査に比べて【車の中】【車内以外（≒職場）】での聴取は変わらないものの、今回【自宅内】の聴取が減っている傾向にあり、テレワークの在宅聴取減少やコロナをきっかけに聴き始めたライトリスナーの離脱などが起きている様子が窺えます。この現象により他局はとりわけスコアの下降がみられましたが、TOKYO FM は従来のコアターゲット M1F1 を含め、ボリューム層の 50 代など各年代層においても、面積の大きい平日ワイド帯を中心にスコアが維持～上昇しており、世の中の状況が刻々変化しつつある中でも、リスナーから高い支持を頂ける結果に繋げることができました。

■ FM FESTIVAL 2021

『竹内まりや RADIO Turntable』 presented by 楽天カード

TOKYO FM をはじめとする JFN 全国 38 局ネットでは、2021 年 11 月 3 日（水・祝）16:00～19:00、特別番組「FM FESTIVAL 2021 『竹内まりや RADIO Turntable』 presented by 楽天カード」を放送します。

11 月 3 日の「レコードの日」で、アンバサダーをつとめる竹内まりや氏が、番組の進行をつとめる住吉美紀氏とともに、アナログ・レコードにフォーカスした特別番組をお届けします。番組では、リスナーからのリクエスト楽曲も紹介しながら、竹内まりや版『棚からひとつかみ』をお届けします。竹内まりや氏が 10 歳の時に初めて自分のおこづかいで買ったレコード、山下達郎氏との結婚式の入場でかけたレコードとそれをセレクトした際のエピソード、今聴きたい秋にぴったりなレコードなどをご紹介します。番組ゲストには、音楽ジャーナリストの高橋芳朗氏を迎え、今、「プラスチック・ラブ」が様々な国でカバーされるなど、世界的に支持されているシティ・ポップについて、日本のシティ・ポップ楽曲に強い影響を受けて活躍する各国のアーティストの音源をご紹介します。山下達郎氏との夫婦放談特別版では、竹内まりや氏が山下達郎氏から初めて聴くエピソードも伺えました。さらに、2014 年の『souvenir 2014』ツアーの 12 月 20 日、日本武道館での貴重な音源や今回初フルオンエアされるドラマ楽曲など、盛りだくさんの内容をお届けいたします。



【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○聴取率調査において、コロナが落ち着いてきた影響がなく、前回と同程度で維持というのは素晴らしいことだと思うが、実際の分析はどうなっているのか。

■ラジオ局全局の合計数値であるセット・イン・ユースは、今回、コロナ以前の数値だった。コロナ禍になって、特に緊急事態宣言下では在宅ワークやステイホームの影響か、セット・イン・ユースが大きく上昇した。それが今回の調査で、日常が戻ってきて外に出る機会が増えたことなどによって数字がコロナ禍に戻った。その中で、**TOKYO FM** は数字を下げることもなく、言い換えれば他局が数字を下げたこととなります。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

『THE TRAD』

10月18日(月)～21日(木) 15:00～16:50 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、平日月～木 15時から放送中のワイド番組『THE TRAD』のダイジェストです。この番組は、ラジオの中の架空のレコードショップを舞台に、月曜・火曜パーソナリティを稲垣吾郎氏と吉田明世氏、水曜・木曜パーソナリティをハマ・オカモト氏と中川絵美里氏がつとめ、「上質な音楽を、じっくり味わう。」をコンセプトに、毎日テーマを設けた選曲と、こだわりを持つゲストを招きお届けしています。

10月18日(月)～21日(木)の放送では、10月1日に開館した早稲田大学国際文学館(通称:村上春樹ライブラリー)で開催されている朗読イベント(10月16日、村上春樹氏、村治佳織氏登壇)後に行われた村上春樹氏と稲垣吾郎氏の対談の様と、朗読の音声の一部を、4日間に分けてお届けしました。読書家として知られ、村上氏の作品も多数愛読している稲垣氏にとっては、「生きているうちに村上春樹さんとお話ができるなんて思ってもいなかった」という夢の初対談となり、小説と演技について、レコードについて、料理についてなど、じっくりと語り合いました。

また、この週のゲストは、村上氏にちなんだ方々をお招きしました。18日は朗読イベントに生伴奏で登壇した村治佳織氏。19日、20日にはそれぞれハルキストで知られるゴスペラーズ・黒沢薫氏、三代目 JSOUL BROTHERS のリーダー小林直己氏。21日は村上春樹氏原作の映画「ドライブ・マイ・カー」の映画音楽を手掛けた石橋英子氏を招き、朗読会でのエピソードや村上春樹作品の魅力、作品が自身の音楽活動に影響を与えたことなどについて、たっぷりとお届けしました。



【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○大変面白く拝聴した。対談部分がとても興味深かった。“音楽家が書いた文章は、描写力は弱いけどリズムが良い”という話とか、“レコードは温泉みたいだけど、CD は家のお風呂みたいだ”というような、こういう、皮膚感覚的な音の気持ち良さって結構大事だと思う。

○朗読イベントは日本ではあまり流行らなくて、ほとんど行われていない。アメリカやヨーロッパでは作家本人がイベントを開催して自書を読み上げるトークイベントが多くあるのに、何故か日本では盛り上がらない。ただ、私は可能性はあるのではないかと以前から考えている。個人的な体験だが、数年前に翻訳家がピアニストと一緒に開催した朗読会に行ったことがある。ピアノの演奏とともに朗読をする翻訳家は別に声が美しいわけでもないのだが、それが美しい音楽ではなく、ダミ声のブルースを聴いているようで逆に大変心地よかった。オーディオブックも同じで、プロのナレーションの人や声優が朗読しているコンテンツなので、滑らかで気持ちがいいのでスッと聴けるけれど、一方で引っ掛かりがない。このような村上春樹氏が朗読するコンテンツは、引っ掛かりがたくさんあって、聴きたいものだと感じた。必ずしもプロのナレーターが朗読するものがないわけではないというか。そういうものがラジオに求められているのではないかと感じた。

○村上春樹氏と稲垣吾郎氏は、どちらも大スターの大変貴重な対談。他ではあまり聴けない掛け合わせなので、稲垣吾郎氏がどう引き出していくのか、ということに大変興味があり、もっと突っ込んで聞いてほしかったという気もしてしまった。

○村上春樹氏と稲垣吾郎氏の対談を受けたあとのハマ・オカモト氏の受けも良かった。ハマ・オカモト氏は音楽に対してかなりマニアックなイメージがあるので、村上春樹氏とハマ・オカモト氏の深い音楽対談を聴いてみたい、と思わされた。

○私はこれまで、村上春樹作品に対して食わず嫌いな部分があったが、この対談を聴いて理由が分かった気がする。私は速読を基本としているので、読書をする時、頭の中で音読をしないことを徹底している。これはそもそも村上春樹氏の世界観・読書感と根本的にずれている。もう少し余裕を持って、速読ではなく、村上春樹作品をじっくり読んでみたいと感じた。

○村上春樹氏と稲垣吾郎氏の対談は素晴らしかった。番組の後半で、いろいろな方が村上作品について、自身の好きな部分を語っていたが、村上春樹ファンの人たちが語る村上春樹の魅力、「ここが好き」ということについて私たちがどうということもないと思うので、この場で審議するとなると言えることが限られてしまう。もっといろんな角度の意見があるようなことの方が、私たちの意見が役に立つのではないかと感じた。

○稲垣吾郎氏が何か村上春樹氏から得ようとしている姿勢に好感を持った。また、ハルキストのゲストの中では小林直己氏が抜群に良かった。先ほど別の委員から指摘のあった、審議に値するかの部分について、どのような意図だったのか説明頂けるとありがたい。

■今回、4日分の放送をダイジェストで聴いて頂くにあたり、どこを抜き出すか大変悩んだ。今回の特集企画は、この番組の放送時間が夕方のワイド番組ということもあり、村上春樹氏にあまり詳しくない方・初心者の方にも楽しんで頂けるように、2時間のうち最初の1時間を村上春樹氏と稲垣吾郎氏の対談にして、残りの1時間を村上春樹氏のファンである音楽家のゲストを招いてお話を伺うパートにした。音楽家というのは、この番組のコンセプトがレコードショップであることからだが、村上春樹ファンのゲストに魅力を語って頂くことで、初心者にもより伝わるようにという二段構成だった。ご試聴頂くにあたり、2つのパターンで検討した、1つは対談部分のみで構成、もう1つは先ほどお聴き頂いた、ゲスト部分を後半に入れたもの。結果的に後者を選んだ理由は、この企画全体の意図、初心者にも聴きやすく、魅力をお伝えするため、という部分をご理解いただくためだった。

○プロデューサーから説明は、どうやってダイジェストを作ったかというご苦労かと思うが、先ほど委員がおっしゃったのはそれとは異なり、なぜこの番組を選択したのかということ。番組審議会がどこを目指しているのかに関わると思うのだが、何を基準に番組を選定しているのか。

■何を基準に、と明言できるものはない。最近の TOKYO FM を映しているという番組もあればチャレンジングな番組もある。明確な3ヶ条があるわけでもない。毎回、委員のみなさまに忌憚なくご意見を賜って大変意義のある会になっていると認識している。ありがとうございます。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

11月27日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>